

基礎・基本の徹底と個性を生かす教育の推進

教育研究所主任指導主事 林 直 紀

剣道の修行に「守、破、離」ということばがある。最初は基本どおり、指導者が定めた手本に従う第一段の修行が「守」に当たる。ある程度までこの修行が進んだ後、自分の工夫や才覚によってこれを破るのが、第二段の「破」の修行になる。さらに修行が進み、破るといような意識的な考えから自然に離れ、しかも守るべき事柄を超えず、独自の境地に至るもので、これが第三段の「離」の域となる。しかし、最初は教えられたとおりに素直に身に付けていくことが大切だということである。

さいたま市では、「生きる力」をはぐくむ『潤いのある教育』の推進に取り組んでいる。その学校教育の指針の一つとして「基礎・基本の徹底と個性を生かす教育の推進」がある。そして、具体的な計画として『(仮称)学びの向上さいたまプラン』を策定した。指導内容・方法の工夫改善、指導力のある教師の育成、そして教育条件・教育環境の整備を通して児童生徒に確かな学力を身に付けさせることをねらいとしている。

宮本武蔵「五輪書」の中に「千里の道も、ひと足ずつはこぶなり」ということばがある。今日は昨日の自分に勝ち、明日は今日の自分に勝とうと努力し、千里の道を一步一步進んでいく。千日の稽古を鍛と言ひ、万日の稽古を錬と言うのだ、と教えている。この「千里の道も一歩から」ということばは、古くから諸芸上達の原則とされている。武芸の鍛錬の方法だけとは限らない。確かな学力を身に付ける道も同様である。

千里の道も一歩から、とはよく言われる。しかし、最初の一歩、つまり基礎・基本をおろそかにするものは、千里どころか一歩も行くことはできないだろう。我々、教師の役割は、児童生徒に最初の一歩につまず躓くことなく、千里の道を歩いていける力を付けることができる授業を実践していくことである。それが教師にとっての鍛錬だろう。